

踏まれ踏まれても生き返る

NO.26 2025.5.18

COM-MATCHAN

いたばし雑草通信

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。

編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

com-matchan@hotmail.co.jp

板橋区立エコポリスセンター「かんきょう観察員」登録
地域自主活動グループのWEBページでも閲覧できます。ほかのグループのレポートも見てください

春爛漫はあっという間に終わり、夏の気配

「春」は確かにあったのだけれど「うららか」さは感じられず、晴天でも風の強い日が続いていました。赤道近くの南からの暖かい空気が上がってきて、反対からは北極圏の冷たい空気が下がってきて、日本列島付近でぶつかり合っているのが不安定な気候になっているのですが、このままいけば何年後かには日本列島は熱帯地方になるのでしょうか。

5月になってからも日替わりの天候で、気が付いてみると早くも梅雨の気配。我が家の玄関先のユリがいつの間にか蕾を膨らませていて、それにたまった雨粒がきれいです。



この葉っぱなあと① 夏・秋の花の展葉



露地に葉を広げている長さが3～4cmの結構大きな草。生長するとどんな花が咲くのだろうかと期待を持ってしまう。

左写真の真ん中のぼっちりが蕾ですが、辺りを見回すと咲いていましたよ。直径5mmにも満たないので目立たないのですが、葉の派手さに比べるとぐんと小型の花・ハキダメギク。



牧野富太郎博士の命名によるものですが、もともとコゴメギクの仲間で「粗毛小米菊」という別目があります。もう少し可愛い名前を付けてくれたら、人々から愛される草になったのに、ねえ牧野サン！

実際の10倍の大きさに拡大したハキダメギク

この葉っぱなあに② そのようであって、そうでもないような



左の展葉した葉はミズヒキのように見えます。でも、それにしても葉の斑紋がくっきりしすぎています。もしかしたら「園芸種のミズヒキ」？ そんなのがあるのかしら？ 右下の葉はイヌタデに似ています。でも、本当にイヌタデなら、こちらはもっと斑紋がはっきり見えるはず

です。いずれも、夏から秋にかけて咲く草ですが、まちなかの道端でも、よく親しんだはずの野草でも、まだまだ分からないことがあります。

毎回のご近所お散歩、漫然と歩くのではなく、観察すべき課題が見えてきました。



この葉っぱなあに③ カヤツリグサ科とかイネ科になったら、もうお手上げ



葉っぱの形からしてイネ科かカヤツリグサ科の植物だとは考えられるのですが、web百科事典Wikipediaによれば、イネ科は700属と8000種、カヤツリグサ科は70属3700種があるとされているので、こうなるともうアマチュアでは思考停止、お手上げ。正確な分類は専門家に任せて、こちらは現場をしっかりと見るのみです。去年は、この辺りではカヤツリグサに似たタマガヤツリと思われる種を見つけたので、今年も同じ花がつけばそれなのですが、ここでもやっぱり歩くたびに生長を確認して、はたしてどうなるのかを見極めるテーマができました。